

ユーフォルビア グラマー

学名: *E. graminea*

種子粒数の目安: 650 から 725 粒/グラム

プラグ生産ステージ

培地

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。培地の pH は 5.8 から 6.2、また培地の初期養分は中庸(0.75-0.8mmhos/cm(1:2))とする。

播種

288 穴あるいはそれよりも大きなサイズのトレイに 1 粒播きをする。パーミキュライト等で覆土する方がよい。覆土する場合は、発芽が助長され、また種子の周りの相対湿度を高め保てる程度に軽くする。

ステージ 1

播種には概ね 3 から 6 日を要する(チャンバーを使用)。杯軸の過度な伸長を避けるため、幼根が発生したあとはずぐに発芽チャンバーから出す。

地温: 18 から 22°C

※ 16 から 25°C の条件でも問題なく発芽する。温度が高い方が発芽は早まる

光条件: 絶対条件ではないがあった方がよい

水分: ステージ 1 では水分レベルをやや湿潤(level 4)に維持する

湿度: 幼根が発生するまでは相対湿度を 95% 以上で維持する

ステージ 2

地温: 18 から 22°C

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)を上限とする

水分: 引き続き適度な湿潤(level 4)を維持する

肥料: レート 1(100ppm(N)以下、EC を 0.7mS/cm 以下)の濃度で、リン酸の低い硝酸態の肥料を与える

ステージ 3

地温: 18 から 22°C

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)を上限とする

水分: 水分レベルを標準(level 3)に下げる。標準(level 3)から適度な湿潤(level 4)の範囲を循環的に繰り返しながら管理する。苗を枯らせないように注意する

肥料: 肥料の濃度をレート 2(100-175ppm (N)、EC 値 0.7-1.2mS/cm(1:2))に上げる。培地の pH を 5.8 から 6.2、また EC を 1.0 から 1.5mS/cm(2:1)の範囲で維持する

ステージ 4

温度: 18 から 22°C

光条件: 53,800 ルクス(5,000 f.c.)を上限とする

水分: 水分レベルをさらに下げて、標準(level 3)から適度な乾燥(level 2)の範囲で管理する。苗を枯らせないように注意する

肥料: ステージ 3 と同様

グラマーにおいて、プラグ苗の茎の制御には B ナイン(daminozide)を 2 回処理することによる効果が確認されている。育苗の初期段階(ステージ 3 程度)で本葉が展開し始めたら、B ナインを 2,500 から 5,000ppm で葉面散布する。さらに必要であれば、7 日ほどおいて二度目の処理を行う

代替の方法としては、幼根発生の段階でボンザイ(paclobutrazol)を 2.5ppm をスプレッチ(散布とかん注の併用)、あるいは 0.25 から 0.5ppm でかん注する処理も可能で、同様に杯軸の制御に効果が確認されている。この処理方法においては、7 から 10 日後に再度 B ナインを 2,500 から 5,000ppm で葉面散布する

ピンチ

ピンチは不要である。

※留意点 グラマーの育苗生産は、16°C 以上の温度条件で行う。16°C を下回ると葉が黄化し、落葉が顕著に現れる

鉢上げから出荷まで

苗の移植: グラマーの杯軸が徒長したプラグ苗は、移植時に培地の表面と軸(ステム)の第 1 節が合うように深植えをする。

コンテナサイズ

10 から 13cm: 1 株移植/ポット

15 から 18cm: 2 株移植/ポット

培地(用土)

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。培地の pH は 5.8 から 6.2 とする。

温度

昼間温度: 18 から 25°C

夜間温度: 18 から 20°C

※ 生理障害や葉の黄化が現れるので、16°C 以下の温度条件は生産は避ける

光条件(照度)

推奨された温度域で管理されている限り、できるだけ高く維持する。

培地の水分

次の水やりする直前までは培地が乾いた状態にする。苗を枯らせないように注意する。

肥料

リン酸分が少なくカリウムの割合が多い、硝酸態の肥料を用いながら、レート 3(175-225ppm(N)、EC は1.2-1.5mS/cm)の肥料を与える。培地の pH を 5.8 から 6.2、また EC を 1.5 から 2.0 mS/cm の範囲で維持する。

ピンチ

ピンチは原則不要である。

PGR(矮化剤)

B ナイン(daminozide)2,500 から 5,000ppm の散布で効果が確認されている。移植後 1 週に初回散布し、必要に応じて繰り返し処理する。

代替の方法としては、移植後 1 週の段階でボンザイ(paclbutrazol)を 1.5 から 3ppm でかん注する処理も可能である。この方法では、概ね一度の処理で十分な効果が期待され、また大きなサイズのプラグでも結果を得やすい。

平均的な生産期間

発芽日数: 3 から 6 日

播種から移植まで(288 穴トレイ): 3 から 4 週

移植から開花まで:

コンテナサイズ	適切なプラグ 移植本数 (288 穴生産)	移植から 出荷まで	播種から 出荷まで
10 から 13cm ポット	1	4 から 6 週	7 から 10 週
15 から 18cm 前後のポット、 コンテナ	2	5 から 7 週	8 から 11 週

病例等

害虫: アブラムシやスリップス、ハダニに注意する

病気: とくに注意喚起する報告例はない

花壇や造園への定植について n

- 気温が常態的に 16℃を超えない間は花壇や造園への定植は行わない。
- 単品でも、またミックスコンテナやバスケット、パーティをプランターなどでも使いやすい品種。
- 昼間の時間帯で半日以上、日のあたる場所に植えつける。
- 花壇では、草丈が 40 から 50cm、株の直径が 20 から 30cm にまで育つ。
- スペース(株間)を 38 から 50cm で定植する。

注意点:

- 同品種を生産するにあたって、ここで示されている栽培情報は基本的な参考資料としてご利用ください。生産された植物は、気候条件や地理的な緯・経度、また作型の時期、ハウスの環境によって結果が異なることがあります
- 殺虫・殺菌剤、また矮化剤の使用についての記載はあくまでもガイドラインであり、必ず使用方法を十分にまた正しく読み、使用者の自らの責任のもとでそれに則った正しい使用方法とるようにしましょう

EC 値について: EC(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、条件によっては適合し得ない場合があります。

●